

Creator自身がInnovationを起こす必要がある。

CCCアドバイザー 甲賀 雅章

20代後半から30代まで、本当にデザインすることが楽しかった。それは単に、意匠的に作品を創るという表層的デザインではなく、企業が抱える課題をデザイン思考で解決する行為であった。特に、30代前半まではコミュニケーションデザインを主にしていたので、効果も非常に分かりやすかった。いい結果を出せば、それが評判となり仕事が舞い込んでくる。勿論、作品としてのクオリティも高かった。いいクリエイターも集まってきた。素晴らしい循環が起り、ビジネスとしても大成を取めた。デザインの領域も広がり、CI、Branding、プロダクト、建築など実に多岐にわたり、国内外の一流クリエイターとも仕事をするようになった。そんな有頂天な私のデザインに対する考え方が最初に変わったのは30代後半である。国内外の街の活性化事例に触れるうちに、この静岡を変えたいと思い始めた。今で言うところのコミュニティデザイン、或いはソーシャルデザインの領域に入り始めた。1992年からスタートした大道芸World Cupはその代表的デザインの一つである。自治体、商店街、地場産業の活性化に力を注ぐようになった。しかし、まだこの頃は、対象こそ企業から社会に移り始めたが、課題解決というデザイン定義は変わっていなかった。勿論、今でもデザインが課題解決のための有効な思考、手段であるということには異論はないが、私がSpeculative Designという考え方に目覚めたのはある企業のコンサルテーションを始めた時からである。今直面している課題を短絡的に考えるのではなく、未来における使命と可能性を問い、思索するところからデザインしていく。つまり、未来のシナリオを創ること、それがデザインの役割ではないかと思い始めた。するとデザイナーに求められる能力そのものの変革が求められる。多くのアーティストに触れたことも大きな影響を与えたと思う。

僕は、「デザインは課題解決するもので、アートは問題提起する」とずっと前から概念づけていた。しかし、アーティストが社会や地域の課題解決にも大きく貢献している姿を見るにつれ、この考え方も大きく変化してきた。韓国はデザイン教育やアート事業に非常に力を入れているが、フェスティバルにおけるシンポジウムのテーマは「ストリートシアターの社会的役割」が圧倒的に多い。私たちも、ビジネスという視点から少し離れ、デザインやアートが社会や人間に対して何ができるのか、その役割とは何かを問うべきではないだろうか？私は、その一つのチャレンジとして、ミニFMの電波を使った新しい身体表現システムをデザインし、Mobile Theatreとして意匠登録し、2021年7月に第一作を静岡市登呂遺跡公園で、2作目は2022年3月に静岡市役所の鏡池広場で、3作目はこの2月に静岡市駿府城公園で、そして4作目を3月に静岡市の中心部で上演した。これは、私にとって、一種のSpeculative Designでありソーシャルアートの一つであると思っている。Beyond コロナにおける新しい表現様式のデザインであり、潜在資源を掘り起こし、新たな光を与えるというアートの役割の一つの実験である。もう一つ付け加えるとすれば、アートのマーケティング見地からのチャレンジ、私たちはMobile Theatre 作品で海外進出を目論んでいる。実現するかどうかは、未知数であるが、Purpose をもった芸術活動も必要ではないかと考えている。Creator自身がinnovationを起こす時かもしれない。

Masaaki Koga



Creator NPO法人Be Creative 代表理事
甲賀 雅章 (こうが・まさあき)

広義の意味でのデザイン、文化戦略を、21世紀型経営の最重要資源として位置づけ、企業、組合、商店街、地方自治体等の活性化におけるコンサルティング活動、ブランド開発事業を展開。CI戦略、ブランディング、コミュニケーションデザイン、シティプロモーション、新商品開発、新業態開発、空間プロデュース、イベントプロデュースと、その活動領域は広く、最近では、ダンサー、役者としても舞台上に立っている。2021年からはMobile Theatre(回遊型体験演劇)制作委員会を立ち上げ、自主作品の制作にも取り組んでいる。デザイン専門学校では20年講師として務め、現在の最大の関心事は、教育を始め、多様複雑化する様々な社会課題をいかにCreative思考でプラスに転じさせることができるか、Speculative Designの可能性である。



2021.07 登呂遺跡公園



2022.03 静岡市役所周辺

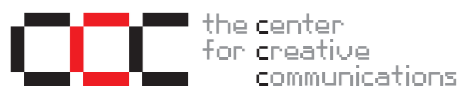


2023.02 駿府城公園

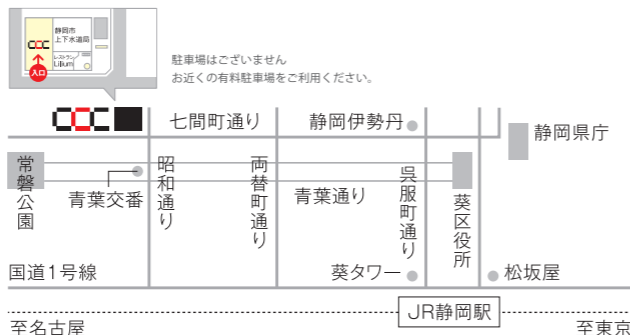


2023.03 静岡市青葉通り

お問い合わせは、お電話またはEメールにて
静岡市文化・クリエイティブ産業振興センター
〒420-0035 静岡市葵区七間町15番地の1 TEL.054-205-4750 FAX.054-260-4550
info@c-c-c.or.jp https://www.c-c-c.or.jp/
開館時間／午前10時～午後9時
休館日／毎週月曜日および12月29日～1月3日 ※月曜日が祝日の場合、翌日以降の最初の休日以外の日



ご来館の際は公共交通機関をご利用ください。
■JR静岡駅より徒歩約14分 ■静鉄新静岡駅より徒歩約13分
■静鉄ジャストライン「東庁・静岡市役所葵区役所前」停留所より徒歩約8分、「七間町」停留所より徒歩約2分



Instagram



Homepage



静岡初！オリジナル曲で呉服町歩行者天国をパレード！
Cover Photo:石川綾子

3/11~12

アワー フェスティバル シズオカ 2023

OUR FESTIVAL SHIZUOKA 2023

春を告げる陽気の中、中心市街地各所でパフォーマーが躍動。

「テーマパークダンスパレード」は、歩行者天国となった呉服町通りでパフォーマンスを披露。多くの観客で賑わい、妖精に扮したダンサーたちをキラキラした目で見つめる幼い子どもたちの姿が印象的でした。公募プログラム「アワーフェス解放区！」は、七間町のARTIEアートガーデンで開催。市民パフォーマーをはじめとした迫力あふれるステージに、あふれんばかりの人だかりができることも。小劇場「人宿町やどり木座」では、4組の出演団体が登場。親密な雰囲気漂う舞台空間を上手に活用、それぞれ特徴あるパフォーマンスを上演しました。青葉シンボルロードでは、一輪車パフォーマンス、現代サーカス、モバイルシアターを開催。プログラムごとに、動と静、華やかさと静謐さが展開されるステージに大いに魅了されました。ジャンルを超えたさまざまなパフォーマンスを、市民がそれぞれのスタイルで楽しんだ2日間。多くの皆さまから好評の声をいただき、ありがとうございました。CCCでは、すでに来年の開催に向けて始動しています。来年の3月も、ぜひご期待ください。



OUR FESTIVAL QRコード

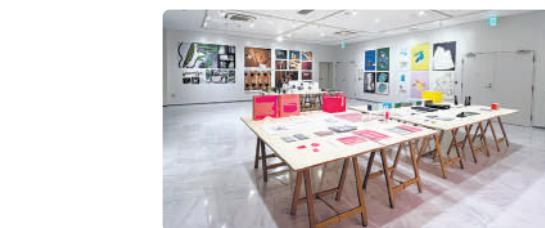


1/18~2/5
JAGDA 新人賞展2022静岡
佐々木拓 竹田美織 前原翔一

01

新たなデザインの可能性を発見できた
展覧会となりました。

グラフィックデザイナーの登門として知られるJAGDA新人賞。佐々木拓氏によるココヨのブランディングポスターや、竹田美織氏による資生堂BAUMシリーズ、前原翔一氏による地域密着型のクリエイティブ作品など、それぞれの現場から生み出されたクリエイティビティは見応えがあり、デザインに対するこだわりや熱量などデザインを学ぶ学生にとって見逃せない展覧会となりました。また、佐々木拓氏、前原翔一氏によるトークショーでは、デザインを学ぶ学生を前に、プロとしての役割を語っていただきました。



2/24~3/5
第65回静岡県私学生徒作品展
美術部門

02

将来のアート・デザインを背負う
学生たちの作品がCCCに集結！

今年もCCCを会場に、静岡県私学生徒作品展 美術部門を開催しました。第65回を迎える今回は県内の私学中学高校16校が参加。デッサン・水彩画・油絵といった平面作品や、紙・針金・粘土・ガラス…と様々な素材を使って制作した立体作品など、自由な発想にあふれた558点の作品を展示しました。ポストカード選手権や美術家教員による作品展示もあり、生徒にとってもよい刺激になったことでしょう。週末は学生とその家族で賑わいました。



子どもの感性を育む！
落合英男の
「あそび教室」

2/11 子どもの感性を育む！落合英男の「あそび教室」
落合英男先生とみんなで盛り上がりました！

03

アート教育の現場で長年活動してきた落合英男さんと体操教室「気のいい羊たち」による、親子向けセミナーとイベントを開催！あそびの時間では段ボールに思い思いの絵を描いて、つなげて作った巨大迷路が登場！みんなでかくれんぼやおいかけてをしました。第二部のセミナーでは、落合さんから幼少の頃の創作遊びがとても大切だということをお話いただきました。子どもたちだけでなく、大人からも「うーわ、楽しい！」という声が聞かれ、みんなの笑顔が弾けました。

第1部
「子どもたちの創作遊び」



第2部
「保護者・教育者向けセミナー」



子どもたちは「気のいい羊たち」の先生と思い切り体を動かして遊びました。



落合英男先生

CCCNEWSアーカイブをホームページに掲載中！

これまで2016年から発行してきたCCCNEWSをこちらのQRコードよりご覧いただけます！



想像力を高める！
「なんだこれ?!
サークル」

2/4・3/11
発想力は鍛えれば、必ずアップします。
自由な思考と表現のための
連続ワークショップ。

思わず「なんだこれ?!」と言ってしまいそうなことを考えて、実際にそれをしてみたり、カタチにしたりして、誰かを「なんだこれ?!」と言わせよう。元美術家で編集者である岩淵拓郎氏と大阪を拠点に子どものためのアートプログラムを企画・制作しているタチヨナとが2014年に共同で開発したワークショッププログラムです。(公式HPより)来年度は親子対象で実施予定です。お楽しみに！



◇今年度の「なんだこれ?!サークル」の様子
参加者は主に創作活動を行っているクリエイターの方たち。2/4に説明会、3/11大発表会、大評議会を行いました！

商品・サービス開発マッチング事業
未来デザインプロジェクト2022

3/15
~26

新商品開発の現場展

地域の事業者とクリエイターをマッチングし
新商品やサービスを開発。
テーマはサーキュラーエコノミー

6つの事業者とクリエイターがコラボレーションし6つのチームを編成。今年度のテーマはカーボンニュートラルをはじめ持続可能な社会の実現を目標とした「サーキュラーエコノミー」に設定。未知の領域で世界中が研究や試行錯誤を繰り返している中で、地域の事業者にできることを探る活動となりました。サーキュラーエコノミーの勉強からはじまり、各チームが自社の特徴と環境に対する考え方をディスカッションしながら開発をおこない、3/15~3/26まで「商品開発の現場展」として新商品発表会を行いました。



株式会社 アプリル × design FUU



株式会社 インターブレイン × magnet-design



株式会社 ディー・エッチャー・エー・マリンフーズ × 澤野真依子



社会福祉法人 ラルシュかなの家 × 八木朋美

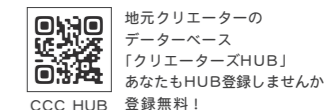


一般社団法人 三保松原3ringsプロジェクト × PUBLIC SERVICE



株式会社 日本スエーデン × n-design

地元クリエイターのデータベース「CCCクリエイターズHUB」新登録クリエイター紹介！



地元クリエイターのデータベース「クリエイターズHUB」あなたもHUB登録しませんか？
CCC HUB 登録無料！

清水 うのうさん
陶芸



駿河区向敷地にある陶芸呑舟庵にて、父である清水邦生に師事し、主に縁起の良い動物モチーフの作品を制作しています。ふくらすずめをモチーフにしたふくらすずちゃんや、疫病退散を願うアマビエさんなどをご覧頂ければ嬉しいです。自分の作品が日々の暮らしに彩りを添えられる存在となればと思っています。今後もどんどん変化していくであろう私の作品達を、温かく見守って頂ければ幸いです。

magnet-design
松尾 憲宏さん
デザイナー
クリエイティブディレクター
サイン/プロダクト/
グラフィック/インテリア



デザインで一番大切なことは相手を理解することです。クライアントの想いを汲み、デザインという知恵のチカラで環境を整えることを一番に考えています。得意なことは理解すること、言語化すること。立体物のデザイン、インテリア、プロダクト、グラフィックと幅広い経験を活かし、デザイン全般の相談相手としてクライアントさんと伴走することが大好きです。また、高校生、専門学校など、教育分野にも力を入れています。2020年よりスタートした静岡市プラモデル化計画におけるプラモニメントすべてのデザインを担当。

HUB登録者限定セミナーや交流会を行いました！

